

北海道ラムサールネットワークと子どもラムサール交流会

報告 雨竜沼湿原を愛する会 佐々木純一

北海道のラムサール条約登録湿地で活動する NGO グループ、水鳥・湿地センターやネイチャーセンター、自治体などの関係者がネットワークで繋がる、「第 8 回北海道ラムサールネットワーク」の年次総会を 6 月 1 日～2 日に雨竜町で開催した。地元の NGO「雨竜沼湿原を愛する会」が当番で、総会とワーキングショップ「湿地の文化と技術・北海道版」のディスカッションを実施した。

「湿地に関わり、一定の地域で共有され、世代から世代へと受け継がれ発展してきた生活様式やその技や智慧」を「湿地の文化」と定義して、これらの事項を「保全と再生、生命と暮らしを支える、資源管理、暮らしを豊かにする、CEPA の文化、その他」に分類して集積、WG で検討して 2014 年総会で全体討論の後に成果物を出版して、ラムサール条約湿地の文化と私たちの生活とのかかわりを、道民に広く普及啓発する計画である。

また協賛事業の子どもラムサール交流会は、「ESD のための KODOMO ラムサール〈雨竜〉」を開催した。ラムサールセンター(RCJ・東京)の協力を得て、ラムサール条約締約国会議 COP10・韓国昌原の「KODOMO ラムサール」、生物多様性条約締約国会議 CPO11・名古屋の「KODOMO バイオダイバシティ」から繋がる「国連・持続可能な開発のための教育の 10 年(DESDE)」に協賛して日本とアジアの子どもを対象に、湿地をフィールドに行う、持続可能な社会を実現するための環境教育活動である。雨竜大会には中海(島根県)、円山川下流域周辺水田(兵庫県)、濤沸湖、厚岸湖、大沼、宮島沼の 6 つのラムサール条約湿地から 21 人の子どもが参加して、「雨竜沼湿原の雪解け水で育まれる雨竜の生活と農業」をメインテーマに、食味ランキング北海道一を続ける「雨竜米がおいしい分け」を探した。雪解け水を貯める暑寒ダム、雨竜の開拓の歴史とゆかりが深い蜂須賀史跡公園、ダムから用水路で流れる水を活用する水田と、実際に田植えを体験した。その後、子どもたちは 4 つのグループに分かれ、おいしい雨竜米を作るために大切だと思う要素を話し合い、6 つの要素をイラストで表現、全体ディスカッションでみんながあげた 24 の「大切な要素」から更に 6 つを選び出し、「みんなを幸せにするお米～雨竜沼湿原の恵み～」というキャッチコピーを決め、1 枚のポスターを完成させた。「おいしいお米を作るために大切だと思う要素」は「ダムの利用」「蜂須賀さん」「人の智慧・工夫・努力」「栄養のある水」「栄養のある土」「きれいな空気」の 6 つでした。

両事業で広く湿地の文化、そしてラムサール条約登録湿地・雨竜沼湿原の雪解け水で育まれる雨竜の生活と農業を実体験で学び、各地から集まった子どもたちが住む故郷との文化の違いとラムサール湿地からの恵みを認識して、今後の活動に生かしていくことを期待して雨竜大会を終えました。

